

ケアポート板橋 山城 恒太（介護職/特養5階）

功 績 ご利用者の希望を聞き逃さず、慣れ親しんだ赤羽の居酒屋へお連れし、夢を実現する事ができました。ご家族からの情報収集、看護との連携、事務スタッフと夢の共有等、多くの方々を巻き込み、夢を実現する成功体験を味わうことができました。ご利用者からは満面の笑みを、ご家族からは感謝の言葉を頂けたことで、本人のやりがいと成長に繋げる事ができた功績。

推 薦 者 宇津木 忠（職種：介護長/所属部署：介護部門）

推 薦 理 由 介護職員の専門性は、「観察眼」と考えます。ご利用者の一番近くで、ほんの小さな変化に気づき、声なき声を汲み取りそれをを形にしていくことが専門職であると考えます。ご利用者とご家族の夢の実現、職員・部門間の連携により、ご利用者の笑顔、ご家族への安心と満足に繋げたこの事例を、理事長賞に推薦いたします。

内 容

特養では介護計画にて、ご本人の夢やチームケアの実現すべき具体的な項目の設定計画をしております。K・T氏は胃癌の手術後、食事摂取量が低下し大好きであった飲酒も控えざるを得ない状況でした。入所後は、毎月1回開催される「居酒屋クラブ」に参加し、主治医・看護と相談しながら極少量の飲酒から始めていきました。クラブ自体はとても楽しまれておりましたが、「やっぱり赤羽がいいな」とボソッと本人から出た希望を山城は聞き逃しませんでした。

K・T氏は赤羽出身で、行きつけの居酒屋が数件あったと息子様より情報を頂きました。息子様は仕事が忙しく、行かせたいけど難しいと話され、ならば夢を叶えるのは自分しかない、早速起案書を作成。看護とも打合わせを行い、居酒屋外出を企画しました。

当日、事務星野がその話を聞き、「そんな素敵な取り組みなら、私も一緒に行くよ」と運転手として同行。「懐かしいなあ」と満面の笑みを浮かべ赤羽の一番街を見つめる本人を見た時、山城は『これが生活を支えることなんだ』と強く感じたと話していました。日本酒を呑まれ、山城の空いた徳利に「あんたも呑みなよ」と気遣いを受け、温かい時間が流れていきました。

いつもは食が細いのですが、この日は出汁巻き卵・冷奴等、普段より多く召し上がられました。

息子様へ報告を行うと、「本当は私がしなければならぬのに、本当に感謝いたします」とお言葉を頂きました。